

児童発達支援事業所における自己評価結果(公)

公表:令和 6年 1月 30日

事業所名 Linkerノア

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		学習スペースも含め、定員人数が十分に活動できるスペースを確保している。さらに、ウッドデッキを設置したことで、活動スペースが広がった。	
	2	職員の配置数は適切である	○		職員は全て常勤で配置基準を満たしており、さらにパートの職員も必要に応じて配置している。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		活動内容や場面によって、仕切り板で空間を仕切り、さらに分かりやすくなるよう対応している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎日の朝礼やSNS上で、現状報告・振り返りを全職員で共有している。	昨年度から取り組んでいる効率化が少しずつ形になってきているので、早急に体系化し、記録や支援計画の作成にも活かしていきたい。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		改善点に関しては、意見をいただいた時点ですぐに全職員で共有、対応するようにしている。	大々的な業務改善を来年度に考えておりその参考になるご意見を頂き大変参考になったため、年に一度ではなく定期的にご意見を頂ける仕組みを作りたい。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		適宜、SNS上でお伝えしている。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	外部評価を行うには費用がかかるため、療育に予算をつけることを優先している。	保護者様にしっかり評価していただけよ開かれたサービスと、自分たちでしっかり見直せる体制を作る。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		ABA、理学療法、発達心理学等の療育の専門の研修にオンラインで参加できるようにしている。	日本の第一線で療育される先生方のセミナーなので、継続して参加したい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		細かく聞き取りや観察を行う中で、各児童・ご家庭にとって、本質的にどのような支援が必要なのかを検討し、支援計画に反映させている。	現状でも質の高いアセスメントを行い、しっかりとした支援計画を作成しているが、より使いやすく、より効果的な支援計画を作れるようにしたい。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○	アセスメントツールで図るのではなく、実際の生活の中でどのように行動しているのかを確認していくことが重要。	アセスメントツールを使うとどうしても機械的に行い観察や考察が蔑ろになりがちなので、これまでは使うことなく行って来たが、一つの指標として使えるようなものを作成し、観察力、考察力を維持しながら使えるように準備して来たものがやっとな形になって来たので、今年度で完成させたい。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		個々の得意・不得意など特性を踏まえた上で、支援内容を設定している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画書に書かれていない細かなことまでしっかりフォローできるようにしている。	支援計画をこれまで以上に活用する仕組みを構築したい。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		来所する児童のメンバーや前回の児童の様子に合わせて、活動内容を決めている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		発語や認知面の課題は個別、コミュニケーションの課題は集団の中で対応する等、子どもによって必要な支援を組み合わせしており、支援計画にも反映させている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		事業所内で確認を行い、さらに朝礼で全事業所に向け、必要事項を共有している。(他事業所を併用している児童もいるため)	
18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○	労働基準法上の問題で、改めて時間をとることは難しいが、事業所内で簡単な振り返りを行い、さらにSNSや翌日の朝礼で全事業所に共有するようにしている。	支援終了後に行う事が大事なのではなく、支援の振り返りにより得たものをどのように次に活かしていくかを重要視している。それに必要な効率の良い手段をその時々で選択している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎日の記録をデータとして残しており、さらに朝礼で全体共有し、事業所内で振り返り、検討を行っている。	オンラインの連絡帳を活用する事によりスタッフの負担は軽減できたが、より質の高い記録を目指したい。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			子どもの様子は日々変化していくので、より細かいスパンで見直しを行うことが出来たらより良いと考えている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		日々関わっている、様子を熟知している者が参加、情報提供するようにしている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		関連機関から相談の連絡が増えており、療育に対して一定の評価を受けていると考えている。満員でご希望に沿えない場合でもできる限りの相談支援を行うようにしている。	必要に応じて連絡を取ることにはあるが、さらに日常的に連携し、保護者支援を行っていききたい。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		事業所内で行っている支援内容や子どもの様子を細かくまとめたものをお渡しするようにしている。	保育園、幼稚園、学校から療育に対する質問や訪問依頼を頂く事も多くなり、療育を教育の現場でどのように活かしていくかを共有できると思う。より多くの関係機関と連携を図りたい。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		同上	同上
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		西宮の事業所が集まる連絡協議会に参加し、情報交換を行っている。	今年度は送迎業務と重なり参加回数が少なかったため、改善していきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○	守秘義務の問題で、行っていない。	今年度は数か所の幼稚園の先生方が見学に来ていただけだったので、そういう形の連携を増やしたいと思う。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		西宮の連絡協議会にて、情報をいただいている。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		日々の状況は連絡帳でやり取りを行っており、さらに送迎時や電話連絡で直接お話をする機会を作っている。	全てのご家庭とこちらから連絡を取る機会を作り、より密に保護者様と連携をとっていききたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○			特に必要なご家庭に対しては、対応の仕方等、保護者様と一緒に実践する機会を設けている。	今年度は特性が類似している保護者様数家族と、対面式のペアトレを行ったが、それを増やしていきたい。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	<input type="radio"/>		利用開始時にお時間をいただいておりますとともに、運営規程については事業所の入り口部分に貼り出している。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	<input type="radio"/>			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<input type="radio"/>			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	<input type="radio"/>		イベントの際に保護者が交流できる機会を複数回設けた。	定期的開催し、保護者様同士が関わる機会を増やしていきたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	<input type="radio"/>		相談をいただいた時点で、全職員に共有し、すぐに対応・報告するようにしている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	<input type="radio"/>		保護者様専用のSNSで、情報を発信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	<input type="radio"/>		活動の様子を写真で見たいご家庭も多く、保護者様専用のSNSのみで取り扱っている。顔出しを控えたご家庭に関しては、写真をあげないよう事前にチェックし、注意している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	<input type="radio"/>		子どもの状態に応じて、柔軟に対応している。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		<input type="radio"/>	守秘義務の問題で、行っていない。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	<input type="radio"/>			定期的にSNSで発信するなど、保護者様に対しても、緊急時の対応の定着を促していく必要がある。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	<input type="radio"/>		外出時に訓練を想定した形で日常的に行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	<input type="radio"/>		アセスメント時に必ず確認するとともに、状況が変わった際には保護者様にも適宜ご連絡いただくようにしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	<input type="radio"/>			デイから飲食の提供はないが、持参したおやつを子供間で分け合う事もあるため、そこにも注意を払っている。感染予防は必須。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	<input type="radio"/>		朝礼で共有するとともに、クラウド内で常時確認できるようにしている。	件数が減ってきているので、しっかり作成する。ネーミングを変えてネガティブなものではなく、未然に防ぐものとして作成していきたい。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	<input type="radio"/>		朝礼時など日常的に、虐待とは何か想定しながら、日々の対応を振り返り、検討している。	虐待防止の計画書作成が義務化される事に伴い、今後、虐待に関する事業所内での研修等を強化していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	<input type="radio"/>		身体拘束は行うことは基本的にはないが、タイムアウトというアプローチが必要な児童に関しては、保護者様に細かく説明をし、承諾を得た上で実施することがある。その際には、支援計画にも記載するようにしている。	虐待防止の観点は絶対に忘れない様にし、嫌悪刺激を使わない支援を心掛ける。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。